

# がんばれ郷土勢

全国高校大会

9

バレーボールの第12回全日本高校選手権は来年1月5〜12日、東京都の武蔵野の森総合スポーツプラザである。男子の鹿兒島工は14年ぶり11度目の出場。5日の1回戦で佐渡(新潟)と対戦する。県予選決勝では、持ち味の高い攻撃力で全国総体8強の鹿兒島商を退け、決勝で敗れた県総体の雪辱を果たした。山口信亮監督は「優勝して自信を付け、さらに成長している。新しいコンビにも取り組んでいる。まだまだ伸びしろがあり、全

背番号	選手名	学年	身長	出身	中出身
1	◎古川 翔一	③	190	清谷	水山
2	中島 紘太郎	③	180	西谷	紫原山
3	菅野 聖悟	③	183	谷	山丘
4	中筋 海道	③	185	桜	水娃
5	小村 智洋	③	178	清	野
6	坂元 琥太郎	②	172	額	第一鹿
7	末吉 崇史	②	179	栗	鹿
8	田中 皓盛	③	167	第一	鹿
9	北野 一真	③	177	川内	北山
10	老谷 恒亮	③	170	加治	木
11	竹下 哲史	①	177	伊集	院
12	瀧田 翔乃介	①	173	西紫	原
13	木崎 須王	②	168	伊敷	台
14	川崎 叶生	②	162	吉	野
15	橋口 蓮也	③	172	重	富
16	福永 拓巳	③	164	榎	丘
17	松下 響弥	①	174	榎	丘
18	川添 優樹	②	178	榎	丘

【監督】山口 信亮 ◎は主将

## バレーボール男子・鹿工

### 高い攻撃力、優勝狙う



高い攻撃力で頂点を目指す鹿兒島工

国大会が楽しみ」と自信を見せる。

190センチの主将古川が大黒柱。高さを生かし、内外から打ち抜くスパイク、切れるあるスパイクを放つ。リリーパーやブロッック、レシーブやブロッック

クは威力十分だ。対角の中筋はパンチ力があり、

でも成長を見せる。センターラインは中筋と菅野。中筋は打点の高いブロッックとスパイクで得点を稼ぐ。菅野の爆発力にも期待がかかる。攻撃を操る2年生セッター坂元は研究熱心でトスの組み立てにたけている。

守備の中心は2年生下リオ。ライト末吉、リベロの木崎、川崎が堅実なレシーブでチームを支える。

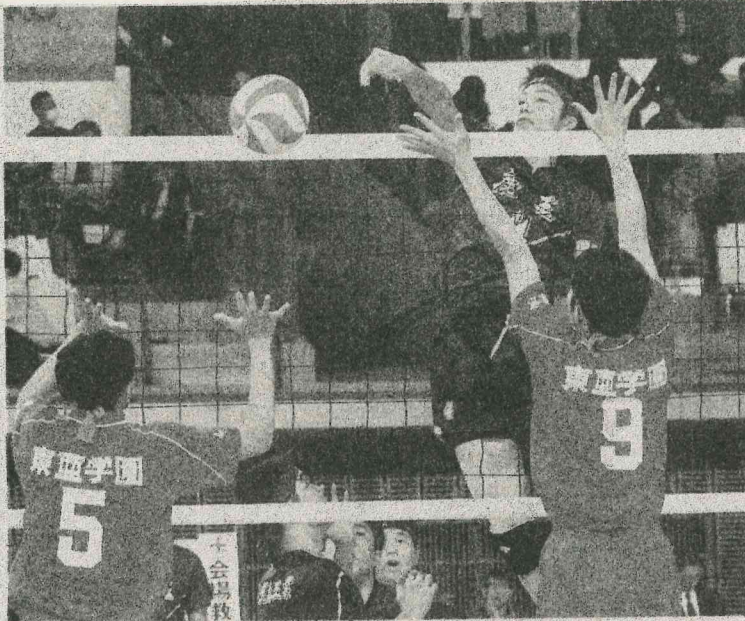
「目標は優勝。目の前の1戦1戦を大事に戦いたい」と山口監督。東亜学園(東京)と対戦する2回戦が最初の山場になりそうだ。古川は「全国大会出場だけに満足せず、1勝でも多く勝てるよう頑張る。持ち味のチームワークと攻撃力で流れをつくりたい」と決意を語った。(二石茂行)

〓おわり〓



# 鹿工も惜敗

東亜学園に  
0-2



第1セット、鹿工・中筋がスパイクを決め15-13とする  
〓武蔵野の森総合スポーツプラザ

【評】鹿工は勝負どころでミスが出て惜敗した。第1セットは21とリードしながら、スパイクミスが続き逆転で失った。第2セットは先にセットポイントを握ったものの、サーブプレシーフが

乱れて3連続失点で力尽きた。東亜学園は要所で勝負強さを見せた。

▽男子個人  
東亜学園 25-23 〇鹿工 (鹿工)  
東亜 26-24 〇鹿工

【評】鹿工は勝負どころでミスが出て惜敗した。第1セットは21とリードしながら、スパイクミスが続き逆転で失った。第2セットは先にセットポイントを握ったものの、サーブプレシーフが

乱れて3連続失点で力尽きた。東亜学園は要所で勝負強さを見せた。

▽男子個人  
東亜学園 (鹿工) 25-23 〇鹿工  
東亜 (鹿工) 26-24 〇鹿工

【評】鹿工は勝負どころでミスが出て惜敗した。第1セットは21とリードしながら、スパイクミスが続き逆転で失った。第2セットは先にセットポイントを握ったものの、サーブプレシーフが

乱れて3連続失点で力尽きた。東亜学園は要所で勝負強さを見せた。

▽男子個人  
東亜学園 (鹿工) 25-23 〇鹿工  
東亜 (鹿工) 26-24 〇鹿工

【評】鹿工は勝負どころでミスが出て惜敗した。第1セットは21とリードしながら、スパイクミスが続き逆転で失った。第2セットは先にセットポイントを握ったものの、サーブプレシーフが

乱れて3連続失点で力尽きた。東亜学園は要所で勝負強さを見せた。

▽男子個人  
東亜学園 (鹿工) 25-23 〇鹿工  
東亜 (鹿工) 26-24 〇鹿工

【評】鹿工は勝負どころでミスが出て惜敗した。第1セットは21とリードしながら、スパイクミスが続き逆転で失った。第2セットは先にセットポイントを握ったものの、サーブプレシーフが

乱れて3連続失点で力尽きた。東亜学園は要所で勝負強さを見せた。

▽男子個人  
東亜学園 (鹿工) 25-23 〇鹿工  
東亜 (鹿工) 26-24 〇鹿工

【評】鹿工は勝負どころでミスが出て惜敗した。第1セットは21とリードしながら、スパイクミスが続き逆転で失った。第2セットは先にセットポイントを握ったものの、サーブプレシーフが

## 勝負どころ 精度に差

本当にわずかな差が勝敗を分けた。鹿工は、優勝4度の強豪・東亜学園に互角以上の奮闘を見せたが、最後の最後まで力尽きた。

第1、第2セットとも中盤まではシーソーゲーム

### バックカーム

ム。「力は五分五分だった。わずか2点差、どちらもた「(古川主将)と選手リードしながら逆転された。た。た、最終盤の勝負。中筋は「こちらのエーど、主力には2年生も多。山口監督は「力を出し切って楽しいラリーを見せられたと、14年ぶりの、奮闘で1勝を

初めの全国大会は「オレンジ色のコートに慣れず、いつものプレイができなかった。視野が狭くなって、相手のブロックが見えなかった」と悔いの残る結果に終わった。「この経験を生かして基本から磨き直す。1年後、この舞台に絶対戻ってくる」と巻き返

第2セット、トスを上げる鹿工・坂元=武蔵野の森総合スポーツプラザ

第2セット、トスを上げる鹿工・坂元=武蔵野の森総合スポーツプラザ

(二石茂行)